竹之内　奏（たけのうち・かな）さん

オペラミュージカル SPICA　企画演出 等
日本知育音楽芸術協会　代表理事



生徒は満席の劇場で拍手を浴び、それぞれの「自己効力感」を得てレッスンを

なでしこカ

Power of Nadeshiko

「音楽教室 × ダンス教室 × 劇団　全部体験できる場所」がキャッチフレーズのオペラミュージカル SPICA（名東区）。少子化で芸術関係の教室は減少傾向だが、現在も小学生を中心に 93 人もの生徒を擁する。年に一度の本公演には生徒全員が出演、年間 約10回の公演やイベントにも出演する。本物のオーケストラをバックに舞台に立ち、表現力、想像力、自己肯定感などが育まれている。

生徒が年 10 回の舞台を経験

こどものための芸術表現教室「オペラミュージカル SPICA」は現在、2 歳児から 20 歳代の生徒 93 人が在籍する。グループレッスンでは 2 歳から小学校低学年まではリトミック運動リズム歌い聞かせなど 1 時間、日本の季節や行事に触れられる唱歌の歌唱にも力を入れる。高学年以上は歌・ダンス・芝居のレッスンで 2 時間行う。

大きな特徴は、団員全員が出演するオリジナル新作ミュージカルを年 1 回公演するほか、年に約 10 回の公演やイベントにも出演。公演準備には週一度のレッスンでわずか 2 カ月だが、舞台で 100％が出せるようレッスンを行う。繰り返しの練習で教え込むのではなく、目標は「自分の考えるやり方で、自分で考えて表現できるように続けていくこと」。有名ミュージカルのオーディション対策の予備校的な塾ではない。

年一回の公演は新作オリジナル作品で

公演の脚本・作詞・作曲、演出もすべて竹之内さんが担当。生徒一人一人の個性に合わせ、あて書きされたオリジナル作品だ。「小学生が別人格を演じ切るのは難しい。無理なく自分の持っているキャラクターを表現できれば、その子が無理なく輝ける…あて書きはそのためです」。公演を通して生徒は演じる楽しさを知り、自信を持ち、SPICA が居場所にもなっている。

月謝は最高でも 4500 円。自身と同じ子育て世代の側に立った価格設定だ。その分、経費節減が必要になるため、公演パンフレットの作成、広報や事務作業も竹之内さん一人で行うため、多忙な毎日だ。

孤独に音楽に向かうのでなく

2 歳から母の手ほどきでピアノを始めた竹之内さん。数々のコンクール受賞経験もあるが、毎日ルーティーンで行うピアノの練習は決して楽しいだけのものではなかった。中学生の頃、京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会の『京都子どもの音楽教室』で、子どもミュージカルの手伝いを経験し、初めて「音楽、悪くないかも」と感じた。いろいろな人と一緒に歌やダンスで自由な表現ができたからだ。

卒業後、海外でも学び、ピアニスト、作曲者、編曲者として活躍。子どもにピアノを教えているうち「孤独にピアノに向かうのではなく、音楽を全身で皆で楽しめることを」と 2004 年、こども



団員全員出演のオリジナルミュージカル公演（2021 年）



今年の第 24 回公演は「ミモザの咲く丘」